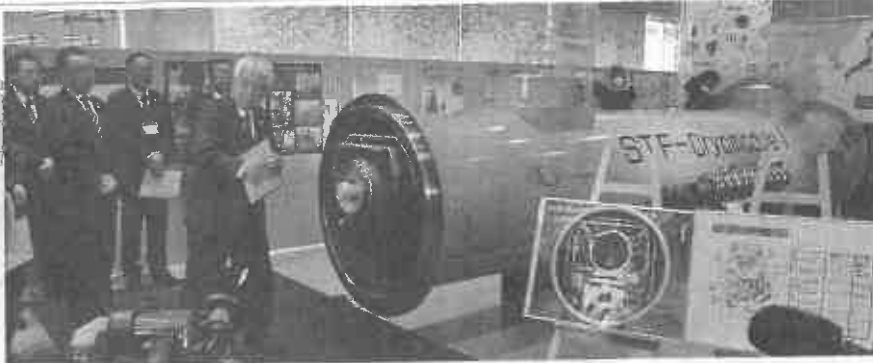


ILC体感、関心高揚へ

盛岡市内 オープンラボ開設



次世代の大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」など加速器関連産業への参入を目指す事業者や興味を持つ学生の研究・学習活動に役立つ「岩手ILC連携オープンラボ」が盛岡市内にオープンした。県が高エネルギー加速器研究機構（KEK、茨城県つくば市）の協力を得て開設したもので、ILCの心臓部の「クライオモジュール」の実機を展示、企業の研究開発の推進につながるほか、子供たちがILCを体感し関心を高めてもらう場とする。

18日は県の関係部局や市町村、民間事業者ら約30人が出席し、同市北飯岡の県先端科学技術研究センター内でオープンラボの開設式を行った。千葉茂樹副知事が「オープンラボを多くの方々に活用いたが、本県加速器関連産業の集積が促進されることも県民の関心が高まるよう期待した」とあいさつし、KEKの吉岡正和名誉教授と中心展示物のクライオモジュールの除幕を行った。

岩手ILC連携オープンラボの開設式で、クライオモジュールについて解説するKEKの吉岡正和名誉教授（左から3人目）

菌や研究ができる開かれた施設として運用する。

展示したクライオモジュールは長さ約6メートル、直径約1メートル、10年ほど前にKEKが製作した初号機で、実験にも使用した実機を県が借り受けた。KEK以外で実機を見学できるのは本県が初めて。本県などが誘致を目指すILCは展示した実機の倍に当たる長さ約12メートルのクライオモジュールを衝突点を挟む形で1000台ほど設置し、中央部の衝突点を電子・陽電子ビームを衝突させるという。

吉岡名誉教授は「クライオモジュールの展示について（装置の）設計は図面だけでなく難しいが、実際に物があるとイメージがつかれる。開発する上で実物があることは大きい」と指摘。「少子高齢化や人口減少に悩める社会を築くにはイノベーションが不可欠。ILCの建設は、イノベーションの基が何十年も前に存在し、日本を築き上げてきた」と改めて誘致

の必要性を訴えた。この問い合わせは、いわて企業や事業者がオープンラボの見学や利用を希望する場合は1週間前までに連絡が必要。見学は011-833-2201へ。